



総合教育センターだより

Be Connected



センターマスコット センタ君

平成25年11月18日(月)
第56号(通算第139号)
京都府総合教育センター
TEL : 075-612-3266



教育相談

平成25年度4月～9月の
教育相談実施状況から

総合教育センターでは、電話・メール・来所・巡回の4つの形態で教育相談を実施しています。平成25年度4月～9月の6ヶ月の間に電話相談は約1600件、メール相談は約100通の相談が寄せられました。来所相談ではセンター(伏見区)と北部研修所(綾部市)で専門のカウンセラーや精神科医が約1000人の相談に応じました。巡回相談では各教育局等へ月1回程度訪問して約100件の教育相談を行いました。



電話相談

電話相談では保護者からの相談が多く、「子育てに対する不安やストレス」、「不登校の問題」、「子どもへの接し方」の相談が多くありました。子ども本人からは、「生き方に関する相談」が増加しました。



来所相談

来所相談では、「不登校」に関する相談が約半数を占めました。「不登校」の他には「発達」に関わる相談が増加しました。子どもの定期的な来談が増加し、来談者が大きく増加しました。



メール相談

メール相談では保護者からの相談が増加しました。「学校教育に関わる相談」が目立ちました。



巡回相談

巡回相談では「不登校」や集団への馴染めなさ等に関する相談が多くありました。中学生の相談が多く、相談機関の少ない北部地域での相談が多くなりました。

来所相談では、思春期の子どもたちの相談が増えています。「めんどくさい」とよく口にする昨今の子どもたちにもゆっくり耳を傾けると、自分のことをわかって欲しいという思いや疾風怒濤の思春期を過ごす不安やいらだちを語っているように感じます。次回は、そうした思春期の子どもたちに「寄り添う」ということをテーマに教育相談の観点から報告します。

講座報告 京の教育「みやび」講座a・b・c

10月7日(月)、10月8日(火)、10月21日(月) 冷泉家 等
公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫 冷泉貴実子 常務理事

公家屋敷のたたずまいをそのままに残す冷泉家住宅の見学や年中行事の講義を通して京都の歴史や伝統への認識を深めました。



感想

冷泉家の歴史や文化を学んだことによって、それらの持つ本物の力を感じた。自校における地域学習や伝統文化学習にも活用していきたいと思う。校内研修でも京都の様々な歴史や文化を学ぶ場を設定していきたい。他府県出身の教員や若手教員の研修に、この研修で配付された資料を活用していきたい。



講座報告



危機管理講座 (センター・北部)

10月25日(金) 総合教育センター
11月1日(金) 北部研修所

「学校事故等の予防策や危機対応の在り方など、危機管理能力の向上を図る」ことをねらいとして、府教委危機管理チーム (CCST) の協力により講義、演習を行いました。

感想

事象の発生後3日間どのような対応をしなければならないのかよく分かった。

また「模擬記者会見」の真剣なやりとりを通して普段から意識しておくことの大切さを感じた。



特別支援教育「中級・アセスメント (通常の学級)」講座 -子どもの読み書き能力-

10月1日(火) 総合教育センター

大阪教育大学 高橋 登 教授
藍野大学 若宮英司 教授
亀岡市立亀岡小学校 田端順子 教諭

読み書きの発達と困難の仕組みについて知り、実際の評価・指導について学びました。

感想

講義では、「学習障害」について、その診断基準となる症状・実態を具体的に詳しく整理し説明してもらえたので大変分かりやすかった。実際の子どもの様子からどう評価するのか、手がかりがつかめた。



人権教育講座Ⅱ (センター)

10月22日(火)

大阪大学大学院 平沢安政 教授 総合教育センター

昨年度作成した人権教育実践事例集(中学校編)の協力校5校の先生方に実践発表をしてもらいました。

午後は平沢先生の講義の後、「人権教育に関わる校内研修の充実について」をテーマとして研究協議を行い、ポスターセッションによる発表を行いました。

講義要旨

人権教育は差別をしない・させない教育から「人権文化を育む」教育という幅広い枠組みへ発展してきた。人権の視点で貫かれた学校づくりが必要であり、そのためには今やっている学校教育のいろいろな取組を人権の視点からどのように貫くか考えることが大切。

また、学級・学年・学校の児童生徒間をはじめ、地域の高齢者、障害のある人など自分と違う他者と積極的に関わることを通して自己肯定感を育むとともに「違うからこそおもしろい」と思える感覚を持てるようにすることが大切。

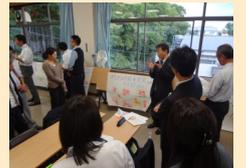
私たちの社会は答えのない問題で埋め尽くされており、21世紀を生き抜くためには他者と考えを交流し自分なりの答えを根拠を示して説明できる力が求められている。今後、人権教育は「21世紀の市民性教育」として広がる可能性を感じる。



感想

実践発表校の取組の中で紹介された人権学習チェックシートを参考にして、自校に見合うチェック内容を考え、若手教員をはじめ同僚に人権教育についての意識を促して行きたい。

また、今日の講座の具体的な内容を伝え、人権教育の視点から本校の教育活動を振り返ってみたい。



これは使える!

~センター作成物等紹介~

別室登校研究

「別室登校」児童生徒の教室復帰に向けた効果的な関わり方について紹介しています。実践に際しては「別室登校」をしている

児童生徒の抱える課題は一人一人異なるので、本書の知見を参考にしながら、一人一人の子どもたちに必要な支援を理解し、関係をもてるように日々関わり続けることが重要です。



お薦めの一冊

ようこそわが家へ

小学館文庫 池井戸 潤

「倍返しだ」「10倍返しだ」で空前のヒットとなったテレビドラマ「半沢直樹」の作者で、元銀行員の直木賞作家である池井戸潤が、「身近に潜む恐怖」を描いた作品である。

妻と一男一女の子どもとともに都市郊外に住む、ごく一般的な生活を送る主人公の社員が帰宅途中、駅で「割り込み」を注意したことから逆恨みに遭い、執拗な嫌がらせを受ける。穏やかな日常を取り戻すため敢然とストーカーと対決する主人公一家だが、その中で家族内の様々な人間模様が見えてくる。



私たちの日常生活で起こりうる事件に、その時「どう向き合うか」「家族とは」を考えさせられる好著である。(N.U)